

小児外科

研修指導者名

家入 里志 加治 建 向井 基 中目 和彦 川野 孝文 山田 和歌 山田 耕嗣

メッセージ



小児外科は、こどもの外科手術を行い、対象は新生児から中学生までになります。しかしながら、こどもの時に手術して、成人になってもフォローアップが必要な青年期以後の患者さんもいます。そういう点では、新生児から青年期までを対象とする総合医的な視点も必要な診療科です。主な対象疾患は、鼠径ヘルニア、急性虫垂炎などの一般的な病気から、食道閉鎖症、腸閉鎖症、鎖肛、ヒルシュスプルング病、胆道閉鎖症、悪性腫瘍など幅広い臓器を取り扱います。当科の方針は、研修早期から多くの症例を診療し、手術を執刀すること（early exposure）が、患者に対する医師としての責任感の育成にも繋がると考えています。また、最新の医療を学び、医学研究に対する興味を持てるように、積極的に学会発表の機会も与えています。これからの外科医療を支えていくためには若き医師の力が必要であり、その育成に力を入れています。ぜひ苦勞することも多いですが、やりがいもあるので少しでも小児外科に興味がある人は、当教室の扉を叩いてください。

研修目標

外科専門医に必要な知識、技能を習得する。

小児外科専門医に必要な知識、技能を習得する。

研修可能技能

一般外科領域の周術期の管理と手術手技

小児外科領域の周術期の管理、小児外科の疾患の手術手技

取得できる専門医資格技能

- ・日本外科学会専門医（卒後5年）
- ・日本小児外科学会専門医（卒後7年）



特 徴

小児外科は、専門が細分化された成人の外科と異なり脳と心臓を除く、ほぼすべての臓器が治療対象となり、幅広い診療と手術が行えます。学問的には外科学を基本とするため、小児外科医であるまゝに外科医となる必要があります。小児外科学を理解するためには外科学、救急医学、集中治療学、小児科学、新生児学、産科学等の関連する幅広い臨床医学の知識の習得も同時に必要で、研修段階では治療対象が新生児から成人までと広がります。そのため小児外科後期研修の最終目標は、小児の幅広い領域の治療を行う小児外科専門医取得ですが、総合診療医 (general physician) としての能力を培う期間ともなります。

研修参加条件

卒後臨床研修修了者

研修施設

鹿児島大学病院、鹿児島市立病院、国立成育医療センター、東京都立小児医療センター、大阪母子医療センター、国際聖路加病院にて小児外科研修を行う。鹿児島大学病院及び鹿児島県内外病院(恒心会おぐら病院、阿久根市民病院、沖縄中頭病院、宮崎古賀総合病院)にて、外科修練を行う。

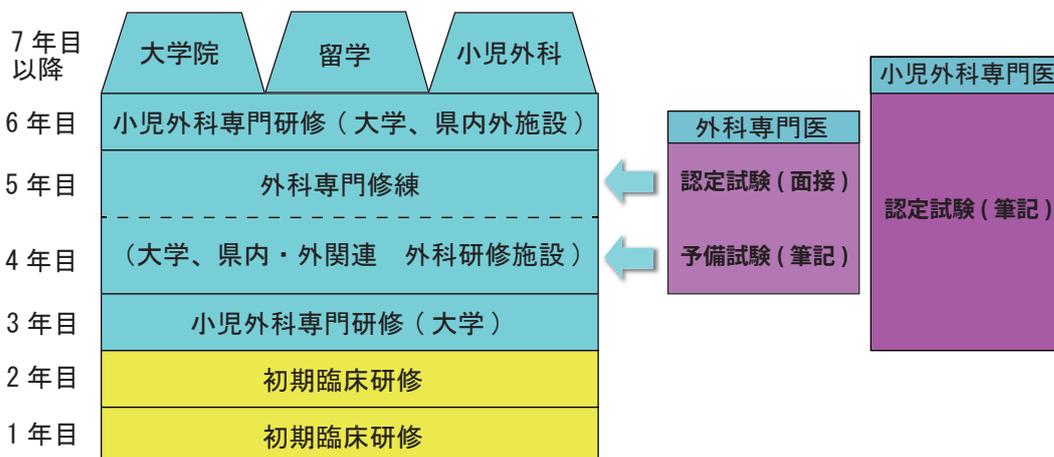
研修期間

小児外科専門医：外科医として7年以上の経験（日本外科学会外科専門医あるいは認定医の資格を持つこと、小児外科専門医試験に合格し、研修指数と論文が必要）

学位：大学院4年

研修プログラム

外科専門医、小児外科専門医取得のために下図に示すような研修を準備しています。
(2017年4月より新しい外科専門医制度が開始予定です。)





研修プログラム

日本外科学会専門医になるためには、以下の条件が必要です。

(2017年からの新しい専門医制度の開始により、一部改変される可能性があります)

- 予備試験の合格（修練開始後、満4年以上を経過した時点で受験資格を有する）
- 修練開始登録後、通算5年以上の修練を行うこと（卒後初期臨床研修の2年間を含む）
- 診療経験

1) 手術手技350例以上

2) 術者としての経験120例以上

各領域の手術手技の最低症例数を経験する。（括弧内の数字は術者または助手として）

1. 消化管および腹部内臓（50例）

2. 乳腺（10例）

3. 呼吸器（10例）

4. 心臓・大血管（10例）

5. 末梢血管（頭蓋内血管を除く）（10例）

6. 頭頸部・体表・内分泌外科（皮膚、軟部組織、顔面、唾液腺、甲状腺、上皮小体、性腺、副腎など）（10例）

7. 小児外科（10例）

8. 外傷（多発外傷を含む）（10例）

9. 上記1～8の各分野における内視鏡手術（腹腔鏡・胸腔鏡を含む）（10例）

■ 業績：筆頭者として学術集会または学術刊行物に、研究発表または論文発表として20単位を必要とする。

小児外科専門医とは「子どもを安心して預けることができる外科医」です。「安心して預けることができる」ということは、「他の適切な施設に転送する」ことも含まれます。自己の力量だけでなく、設備や人員をも含めた総合的な立場から最も正しい治療法を選択できることであり、全ての小児外科的疾患を治療できる力量を持つことではありません（小児外科学会ホームページより抜粋）。

小児外科専門医になるためには、

■ 認定施設において、小児外科の研修を研修医として通算3年以上行っていること。

■ 外科医として7年以上（うち5年以上は臨床研修とする）の経験を有すること。

■ 外科専門医の資格を有すること。

■ 小児外科に関する筆頭者としての研究論文および症例報告を、それぞれ1篇以上、およびその他の論文を3篇以上発表していること。ただし、筆頭論文のうち1篇は日本小児外科学会雑誌に掲載されていること。

■ 学会、地方会または研究会において、小児外科に関する発表を、演者として3回以上行っていること。

■ 本学会の行う筆記試験に合格していること。

■ 手術経験数としては以下が必要です。

1. 小児外科手術150例以上の執刀経験

2. 新生児20例以上の手術経験、うち少なくとも10例は執刀経験とし、残りは助手でも可

3. 5歳以下乳幼児100例以上の執刀経験

4. 鼠径ヘルニア類100例以上の執刀経験

5. 鼠径ヘルニア類以外50例以上の執刀経験

現在研修中の医師数

	大学内(うち大学院生の数)		大学外
卒後3年目	1	(0)	0
卒後4年目	0	(0)	0
卒後5年目	0	(0)	1

プログラムの募集人員及び選考

【募集人員】 2～3名/年

研修と大学院の関係

卒後6～10年目頃に希望者は大学院入学。
希望者は大学院在学中又は卒業後に外国留学可能。

処遇

大学病院の規定による

研修終了後の進路

鹿児島大学病院、他大学病院、国・公立病院、医師会病院等の外科・小児外科の勤務医、開業

指導医・専門医

日本小児外科学会指導医 2名・専門医12名

日本外科学会指導医 2名・専門医21名

プログラムに関する問い合わせ窓口

小児外科医局

〒890-8520 鹿児島市桜ヶ丘8丁目35番1号

電話：099-275-5444

FAX：099-275-2628

E-mail：pedsurg@m3.kufm.kagoshima-u.ac.jp

